

## 何のために働くのか、何のために勉強するのか

－公立中学校、東京岬塾で考える－

開倫塾

塾長 林明夫

**Q：公立中学校でよくお話されているそうですね。**

A：(林明夫：以下省略)東京にある社団法人経済同友会からの派遣講師として、学校や教育委員会からの御依頼で毎月1～2回出張授業に出掛けています。

1月12日には東京都杉並区立井荻中学校、22日には練馬区立谷原中学校、2月10日には埼玉県入間市立上藤沢中学校、15日には群馬県渋川市立赤城南中学校(会員である群馬経済同友会からの派遣講師として)、22日には東京都墨田区立墨田中学校、3月15日には足立区立栗島中学校と、今年に入って6回も公立中学校でお話をさせて頂いております。

学校からテーマとして、働くとは何か、何のために働くのか、社会で求められる能力とは何か、何のために勉強するのか、学校の勉強は社会に出てから役立つのかなどの質問項目が事前に送られてきます。生徒からも、人は何のために生きるのか、よく生きるとは何かなど、ものごとの本質に迫るような質問があります。

**Q：随分難しいテーマでお話されているのですね。中学生には難しすぎるのではありませんか。**

A：中学校としては、学年相応の職業観をもち、生きる意味を自分なりに考えるきっかけを与えるために、いろいろな分野で社会で活動する人々を招く中で、経済同友会のメンバーを講師として依頼しているのだと思います。

私も、自分の中学校時代のことなどを思い出しながら、できるだけ具体的に、また、わかりやすくお話するように努めていますが、勉強が足りないことを毎回痛感させられます。

ただ、このようなテーマで、毎月のようにお話させて頂く機会を頂きましたので、自分自身を振り返ったり、生きるとは何か、人生とは何か、勉強する意味などを深く考えることが多くなりました。有難く思います。

そのような折りに出会ったのが東京岬塾です。

**Q：東京岬塾とは何ですか。**

A：作家・思想史研究家として名高い岬龍一郎(みさきりゅういちろう)先生が著述業の傍ら、人材育成のために全国に10余りつくられた私塾の一つで、東京都内で毎月第4月曜日午後7時から9時まで行われているものです。

岬先生の御著書「日本人の名著を読む」(知致出版刊)をテキストに、毎回一人ずつ代表的な著作について議論し合っております。今年は次の通り。

- 1月 吉田兼好「徒然草」
- 2月 宮本武蔵「五輪書」
- 3月 中江藤樹「翁問答」
- 4月 山鹿素行「山鹿語録」
- 5月 伊藤仁斎「童子問」
- 6月 貝原益軒「養生訓」
- 7月 松尾芭蕉「奥の細道」
- 8月 新井白石「折たく柴の記」
- 9月 山本常朝「葉隠」
- 10月 石田梅岩「都鄙問答」
- 11月 恩田木工「日暮硯」
- 12月 杉田玄白「蘭学事始」

なお、偶数月の第1月曜日に足利市で開かれるとちぎ岬塾は、次の5人です。

- 4月 内村鑑三著、代表的日本人「西郷隆盛」
- 6月 同上「上杉鷹山」
- 8月 同上「二宮尊徳」
- 10月 同上「中江藤樹」
- 12月 同上「日蓮」

何のために生きるのか、なぜ生涯にわたって勉強し続けなければならないかを考えるときに、まずは日本の先賢・先学の思想を系統的に学ぶことが不可欠と思います。

岬先生は、その先頭に立って若い経営者の自立のために私塾をおつくりになっておられます。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者の皆様にお伝えしたいことはありますか。**

A：公立中学校は自らの存立を懸けて、何のために生きるのか、学ぶのかを生徒に自ら考えさせ、自覚をもって勉強させるために様々な取り組みをスタートさせつつあります。

教育成果を決定する要因は、本人の自覚と教師の力量であり、本人の自覚を促すことは教師の力量であると私は考えます。

先生と生徒が、何のために生きるのか、よく生きるとは何か、そのために何をどのように自覚をもって学ばねばならないかを考える際に、岬先生の示されたような名著をコツコツと深く読むしくみをおつくりになることは、有用と考えます。

新学年がスタートいたしますので、東京岬塾を参考にして、先生方の教育機関でも経営者自身がリーダーシップを発揮なさり、ものごとの基本、教育の原点、建学の精神に立ち返るしくみをおつくりになることを、僭越とは思いますが御提案させて頂きたく思います。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：今月もお読みななればお役に立つと思われる本を御紹介します。名著、小西甚一著「古文の読解」（ちくま学芸文庫）2010年2月10日刊です。長らく絶版であったものが私を含む多くの旧読者の要望（再刊ドットコム）で再刊されました。同時に再刊された名著、高田瑞穂著「新釈現代文」とともにお勧めさせて頂きます。是非御一読を。来月から、海外からのご報告を再開いたします。

お楽しみに。

尚、私の各中学校での出張授業の講義内容(レジメ)は、開倫塾ホームページ([www.kairin.co.jp](http://www.kairin.co.jp))の林明夫のコーナーにあります。よろしかったら御参考までに御高覧下さい。

－ 2010年2月22日 林 明夫記－